

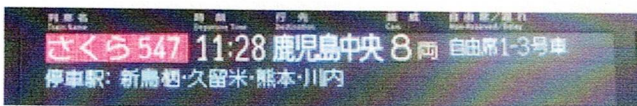
南九州6城巡りの旅行4月4日から6日までの2泊3日に出かけました。

名古屋--<新幹線「のぞみ」99号7時28分発>--博多駅10時46分着--<新幹線「さくら」547号11時28分発>・鹿児島中央駅12時53分着①鹿児島城13時30分~15時30分 霧島・ホテル京セラ16時30分着(泊)2日目ホテル7時50分発②飫肥城10時10分~11時20分 昼食(元祖おび天本舗11時30分~12時20分)--③人吉城14時30分~15時30分--熊本新市街コンフォートホテル熊本新市街17時10分着(泊)3日目8時45分発④熊本城9時10分~10時30分 昼食(高田田楽の森12時10分~13時)--⑤岡城14時20分~15時30分--⑥大分府内城16時40分~17時10分-小倉19時40分着--<新幹線「のぞみ」272号20時17分発>--名古屋23時20分着 帰宅0時40分
4月4日の行程 名古屋駅7時28分発「のぞみ」に乗車



車内でおにぎり2個とサンドイッチの朝食摂る

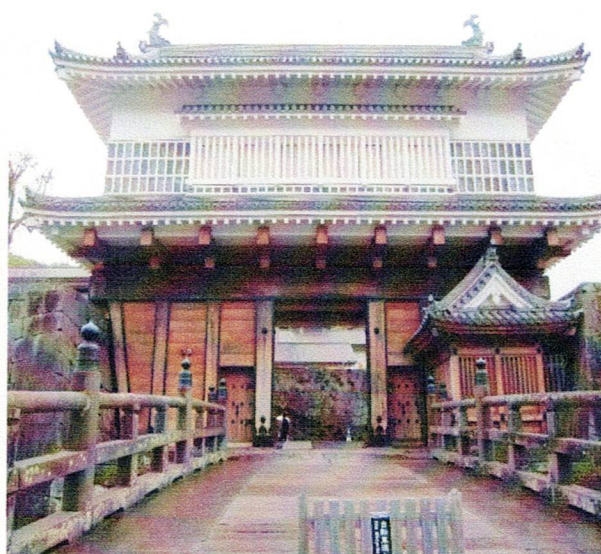
博多駅11時28分発「さくら」に乗車



車体は陶器の青磁色でした

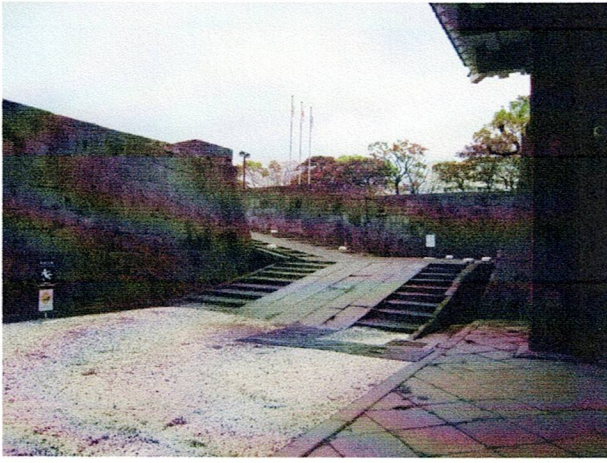
車内にて昼食を摂る

鹿児島城 黎明館(鹿児島県歴史・美術センター)13時30分~15時30分見学



山城部分である城山が、鶴が羽を広げたように見えたことから、明治時代以降は鶴丸城の名称で親しまれている

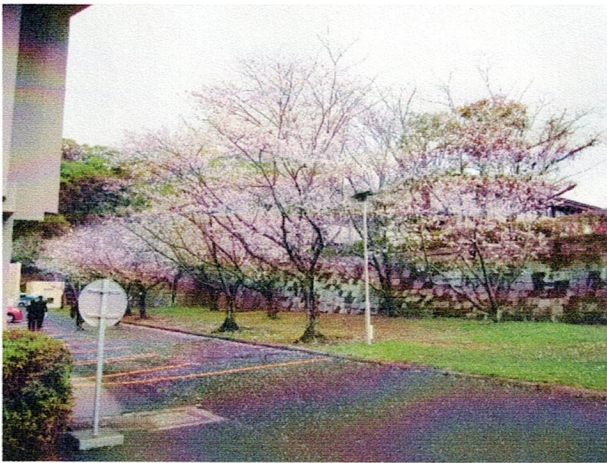
大手門である御楼門



枡形小口



西南戦争の法弾痕・銃弾痕が残る石垣



城内の桜（満開は過ぎている）



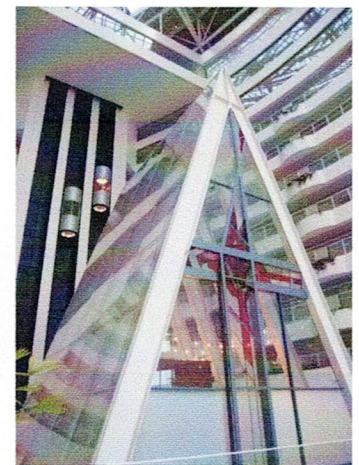
天璋院篤姫像



最大の特徴 隅欠（すみおとし）

霧島・ホテル京セラ 16時30分着(泊)

高級ホテルでした



宮崎県日南市 重要伝統的建造物群保存地区

九州の小京都：飫肥城下町
伊東家五万一千石の飫肥城跡

苔むした石垣、
飫肥杉の緑に包まれた武家屋敷、
時代を超え400年の昔にタイムスリップ。

飫肥城 大手門 おひじょう おおてもん

明治6年（1873）に取り壊された大手門を、昭和53年（1978）に約100年の飫肥杉を使用して再建した。NHK朝の連続テレビ小説「わかば」のロケ地で、人気のスポットのひとつ。

A 飫肥城歴史資料館
おひじょうれきしりょうかん

令和4年3月リニューアル

令和4年（2022）3月に施設をリニューアルオープン。飫肥藩の関係資料を展示するために昭和53年（1978）完成。外観は二条城などを参考に玄関は唐破風となっている。飫肥における武家文化、甲冑や近世新刀期を代表する刀工の刀、現在へと繋がる武家の功績などを紹介。プロジェクションマッピングで飫肥の変遷を巡ったり、レプリカの刀剣や火縄銃を実際に持つこともできる。



B 松尾の丸
まつおのまる



昭和54年（1979）に、新たに松尾の丸に建てられた御殿。松尾の丸は城を構成する曲輪の1つであるが、当時の建物の記録が残っていないため、京都二条城など江戸時代初期の御殿を参考に設計された。御座の間では屋敷の主人になった気分で見学できる。蒸し風呂は、京都西本願寺の国宝飛雲閣の湯殿（重文）の複製。こけら算きの総檜作りである。九州で蒸し風呂が見学できるのは松尾の丸だけ。



大手門
枡形小口
飫肥城跡

C 豫章館

よしやうかん

明治2年(1869)、伊東祐相(鉄肥藩13代藩主)と伊東祐悳(鉄肥藩知事)父子が鉄肥城を出て移り住んだ。それまでは藩主一門である伊東主水家の屋敷だった。混乱の時代であったため、時間と経費を補うため、城内の奥御殿より御殿を移築して改修を行った。鉄肥城内の建物を伝える数少ない施設である。庭園と屋敷は市指定文化財になっている。屋敷内にあった樹齢数百年の大楠(「章」とも書く)にちなみ祐相が「豫章館」と命名した。



D 小村寿太郎記念館

こむらじゆうたろうきねんかん

令和4年3月リニューアル

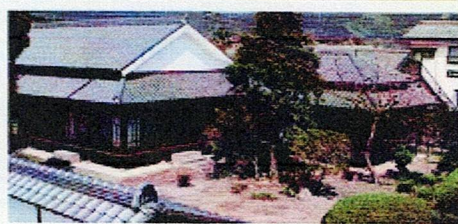
平成5年(1993)に開館。日本外交の礎を築いた明治の外交官・小村寿太郎の生涯や偉業がミニシアターで紹介されている。"ようこそ鉄肥へ"では日南の観光スポットや鉄肥の特色や文化も紹介。



明治の外交官
小村寿太郎侯

E 旧山本猪平家

きゅうやまもといへいけ



鉄肥の実業家であった山本猪平が、明治40年(1907)頃に建築した本宅で、ほぼ建築当時のまま残されている。鉄肥の商人屋敷を現代に伝える遺構として、貴重なものである。小村寿太郎の産湯の井戸も残る。

F 商家資料館

しょうかしりょうかん

商人町の代表的建物である妹尾金物店を、移築復元して本町の商家資料館とした。建物は明治3年(1870)に実業家の山本五兵衛が建てたもので、木造一部二階建ての白漆喰壁の土蔵造りで、樹齢200年以上の鉄肥杉を使った贅々な建物である。



H 小村寿太郎生家

こむらじゆうたろうせいが

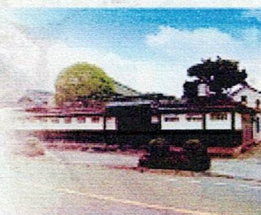
小村寿太郎は桂太郎内閣で2度も外務大臣をつとめた。数ある実績の中でも、明治38年(1905)に日本側全権として、ポーツマス条約(日露講和条約)に調印し、日露戦争を終結に導いたことは、最たるものである。その寿太郎の生家が、平成16年に復元された。



G 旧高橋源次郎家

きゅうたかはしげんじろうけ

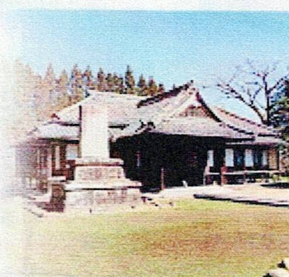
茅葺きであった民家が瓦葺きへ転換していく初期の建築としても、価値が高い建物である。平成22年(2010)9月10日、主屋や蔵等の5件が、国の登録有形文化財(建造物)となった。



I 旧藩校 振徳堂

きゅうはんこう しんとくどう

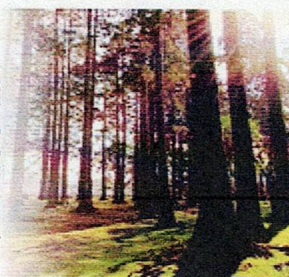
天保2年(1831)に鉄肥藩13代藩主・伊東祐相が学問所を大きく増改築し、振徳堂と命名した。孟子の教えからとった校名。儒学者の安井滄洲・恩野父子を招き藩校の基礎を築き、後には鉄肥西郷と称された小倉勉平や日本外交の礎を築いた小村寿太郎などを輩出した。



J 鉄肥城旧本丸跡

おびじょうきゅうほんまるあと

元禄6年(1693)に現在の鉄肥小学校グラウンドに本丸が完成移転するまでは、旧本丸が藩主の御殿だった。旧本丸は3度の大地震で地割れが発生し、御殿を移転することとなり、城は土塁から石垣を多用した近世的な城館に変貌した。



K 四半的射場

しはんまといば 日南市有形文化財

鉄肥藩に伝わる弓術で、射場からのまで四間半、弓矢ともに四尺五寸、的が四寸五分で、すべて四半であることから四半的と呼ぶ。明治以降庶民の娯楽として普及。



指導員が丁寧に指導いたします。旅の思い出にどうぞ。

※体験料が必要です。

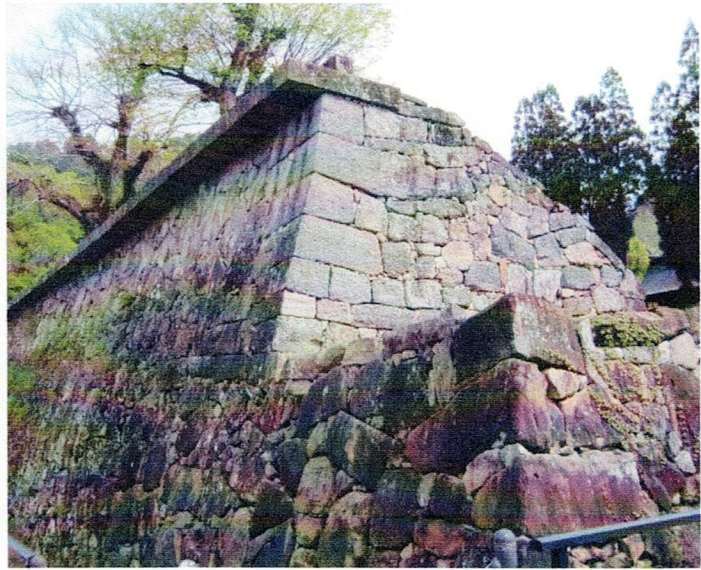
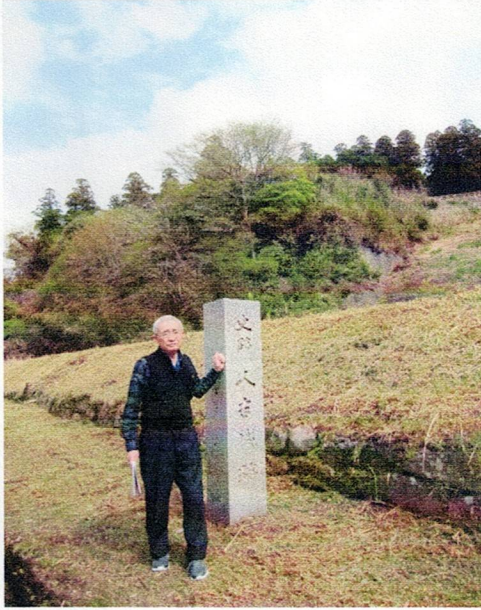
城下町の桜並木

日本一小さなローウタリー交差点があり、



③人吉城 14時30分～15時30分

人吉城跡と石垣の上に切り返しの石段あり 入口



相良氏(さがらし)とは

今から約800年前、相良氏初代の長頼は、鎌倉幕府の源頼朝の命を受け、建久9(1198)年、遠江国相良庄(静岡県牧之原市)からこの人吉庄にやってきて、地頭になった。室町時代、相良氏は、薩摩、日向に兵をさしむけて領地を拡大。やがて、第11代長統が上相良氏を滅ぼし球磨郡内を統一し、第12代為統が八代の名和氏のお家騒動に乗じて八代と豊福を手に入れるなど、戦国大名としての階段を登っていった。その後、第16代義滋は芦北を制圧し、三郡支配(球磨・八代・芦北)をおこなうが、天正9(1581)年の「水俣合戦」で島津義久に敗れ、芦北・八代を失うことに。天正15(1587)年、豊臣秀吉の九州征伐に敗れ、秀吉に降伏し、球磨郡のみの支配を許された。この時の当主は、第20代長毎である。

長毎は、この頃から中世の人吉城を近世の城としてリフォームを開始し、自然の地形を防御に活かした山城から、石垣造りの城へと修築した。現在の球磨川・胸川沿いの石垣がその時のものである。長毎は、豊臣秀吉の朝鮮出兵に出陣したが「関ヶ原の戦い」(1600年)では、重臣・相良清兵衛の機転により、豊臣方から一転し徳川方についた。徳川家康は天下をおさめ、江戸幕府を設立。相良家も近世大名として明治4(1871)年の廃藩置県まで、この球磨郡の領主・知事をつとめた。

人吉城ご案内

◆本丸◆

はじめ「高御城」と呼ばれ、地形的には天守台に相当するが、天守閣は建てられず、寛永3(1626)年に御理堂が建てられ、その他に御先祖堂や時を知らせる太鼓堂、山伏番所がありました。

◆二の丸◆

江戸時代初期、「御本丸」と呼ばれて、城主の住む御殿が建てられ人吉城の中心となった場所です。周囲の石垣には瓦を張り付けた土塀が立ち、北東部の隅形には備門形式の中御門があり、見張りのための番所が置かれた。二の丸御殿は、6棟の建物で構成され、すべて板葺の建物で、相互に廊下や小部屋でつながり、建物の間には中庭がありました。御殿の「御金ノ間」は徳などに金箔が張られていた書院造りの建物で、城主が生活・接客する御殿の中心となる建物でした。

◆三の丸◆

二の丸の北・西部に広がる曲輪です。西方に於津賀社と2棟の「庫蔵」、井戸と長屋を配置するだけで、広大な広場が確保されています。周囲には石垣は作られず自然の崖を城壁としており「竹茂かり垣」と呼ばれる竹を使った垣で防護していました。

◆於津賀社◆

初代相良長朝の入国前の人吉城主であった平氏の代官矢瀬王馬場をまつる霊社です。

◆御館御門橋◆

多脚式の石橋で、明和3(1766)年に山田村の石材を切り出し、城内各村に割当てて運搬させ建設されました。

◆織月城の由来は「織月石」◆

(人吉市指定文化財)

正治元(1199)年正月三日に人吉城の修築を始めた時、城の西南隅から三日文様の石が発見されたことから、別名「三日月(織月)城」と呼ばれるようになりました。この石は、当初、本丸の側に安置されましたが、元龜3(1572)年に第18代当主義隆が谷口重吉(通称命蓮)の贈賄に負じ、愛宕神社前に新しく祠を建てて安置されています。その後、文久2(1862)年の寅助火事で祠と共に焼けたため一時民間にありましたが、当時、五日町の古物商木村初太郎氏の尽力により相良神社に奉納され現在に至っています。



◆多門櫓◆

(復元面積199㎡)

大手門の北側石垣上にある長櫓です。本瓦葺き人形屋造り、縄形の平屋構造の建物で、壁は上部が漆喰大壁、下部が土壁の下見板張。外面の4面の突き上げ窓は防弾のためのものです。



◆多門櫓北側長塀◆

(復元長151m)

瓦葺きの土塀で、外面は上部を漆喰壁、下部に腰瓦を張り付けた海鼠(なまこ)壁です。櫓の2ヵ所に攻撃用の「石落とし」が設置されていました。



◆地蔵院◆

人吉城の東側の谷間は、中世の頃より寺社が点在していた地域です。地蔵院は、応仁元(1467)年に寺地の南側高台に建てられた愛宕神社の別当寺として創建された真言宗寺院です。

◆大村来御殿・間来蔵・間蔵◆

人吉藩では藩内12ヶ所に米蔵を置きました。このうち間(中)蔵と大村蔵は、それぞれ城内の水ノ手口と観合門東方に1棟ずつありました。

◆谷口舟渡◆

谷口舟渡は、主に城内と対岸の商人町・侍町との交通に利用されました。藩は宝暦6(1756)年には谷口から上流に船頭の舟が上るのを禁止しており、往来監視のため舟番所も置かれていました。

◆御下門◆

「下御門」と呼ばれ、人吉城の中心である本丸・二の丸・三の丸への唯一の登城口に置かれた門です。

◆観合門◆

城主の住む御館の北側入口に置かれた門です。文久2年の寅助火事で焼けた後、明治4年の薩摩置戻後の城内建物を取りこぼす時、土手町に住む新宮家に移築されました。

◆水ノ手門西側長塀◆

(復元長63.5m)

瓦葺きの土塀で、外面は上部を漆喰壁、下部に腰瓦を張り付けた海鼠(なまこ)壁です。

◆角櫓◆

(復元面積149㎡)

駒川と球磨川の合流点、人吉城跡の西北角に位置する櫓です。櫓は、本瓦葺き人形屋造り平屋構造の建物で、壁は上部が漆喰大壁、下部が土壁の下見板張。外面の8面の突き上げ窓は防弾のためのものです。



人吉城の歴史

人吉城は、鎌倉時代のはじめ、源頼朝の命を受け、人吉庄の地頭として着任した遠江国相良庄(現在の静岡県牧之原市相良)を出身とする相良長頼により修築されたと伝えられています。ただし山城としての本格的な築城は、文明2(1470)年頃、12代当主相良為統の時です。

豊臣秀吉の九州統一後の天正17(1589)年、20代当主相良長毎が豊後から石工を招き人吉城を石垣づくりの城として改修しました。慶長6(1601)年には本丸・二の丸・堀・櫓・御門まで完成し、慶長12(1607)年から球磨川沿いの石垣を築き始め外曲輪が造られました。寛永16(1639)年に石垣工事は中止されますが、この時、近世人吉城がほとんど完成しました。

人吉城は2度の大火があり、特に、文久2(1862)年の寅助火事では城内の建物がほとんど焼失しました。翌年、御館北側の石垣が「はね出し」という工法で防火のために造られました。この工法は、兩館五稜郭、江戸湾台場など日本の城で数例みられる西洋式の石垣です。

明治4(1871)年の廃藩置県の後、城内の建物は立木とともに払い下げられ、石垣だけが残っていました。

熊本新市街コンフォートホテル熊本新市街 17時10分着(泊)

熊本城の歴史

- 1608年 加藤清正「熊本城」に入城
- 1607年 新城完成、熊本を熊本に改称
- 1611年 酒正死去、加藤忠広が正統藩主となる
- 1632年 相川朝利、加藤忠広を廃止として熊本城入城
- 1671年 鎮西鎮西を熊本城内に設置
- 1677年 藩政重要に、より熊本藩が熊本具となる
- 1689年 西南戦争
- 1877年 宇土藩邸修繕、長堀改築
- 1902年 宇土藩邸修繕、長堀改築
- 1907年 熊本城大天守を再建
- 1989年 熊本城大天守を再建
- 1990年 現行熊本城跡を特別史跡に指定
- 2002年 数寄屋五層飯田丸完成
- 2003年 南大守再復元
- 2005年 天守櫓・南大守・元次櫓修復元
- 2006年 飯田丸五階修復元
- 2008年 本丸御殿大広間復元
- 2014年 馬具櫓復元
- 2016年 平成28年熊本地震で大きな被害
- 2019年 大天守外観復旧／特別公開第1弾
- 2021年 特別公開第2弾
- 2022年 特別公開第3弾
- 2022年(予定) 熊本城完全復旧

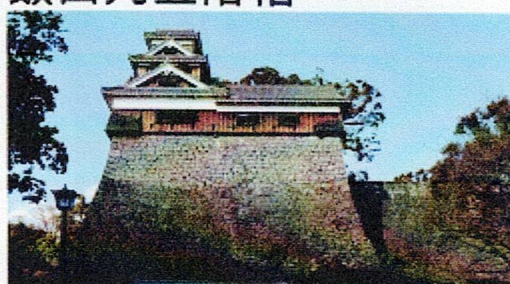
雄姿、再び。復活に向け、着実に工事を進めています

宇土櫓



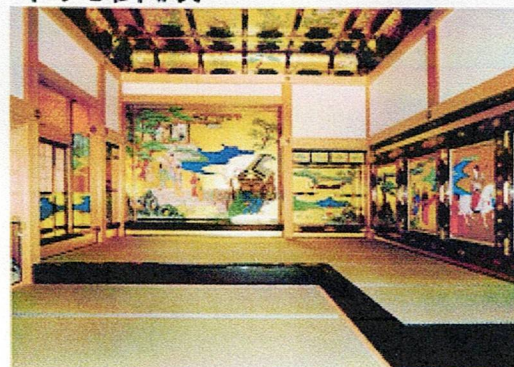
宇土櫓は国指定の重要文化財で築城当時の姿を保っています。3層5階地下1階建てで、他の城郭では、天守に匹敵する規模です。平成28年(2016年)熊本地震では、続櫓部分が倒壊する被害が出ました。令和4年(2022年)より増解体に向けた工事が始まり、令和5年(2023年)から約10年程度素屋根に覆われます。東・南面の外壁は透透性の高いシートとするため、天守閣等からは工事の様子を見ることができず。(現在内部非公開)

飯田丸五階櫓



飯田丸は本丸南側にあり、熊本城の南西を守る拠点です。この飯田丸で最も高い建物である飯田丸五階櫓は、平成17年(2005年)に復元されました。平成28年(2016年)熊本地震では、石垣が崩落し、隅石(すみいし)で櫓を支えていたことから「一本石垣」と呼ばれました。現在では再建に向けて、五階櫓、石垣ともに解体されています。令和4年(2022年)9月から石垣の積み直しが始まりました。

本丸御殿



平成20年(2008年)、熊本城築城400年を記念して復元が実現。古写真や古文書・発掘調査の成果をもとに、住時の熊本城の雰囲気を感じて、絢爛豪華な建物として完成しました。華やかな大名文化の雰囲気が漂う本丸御殿大広間には、最も格式の高い部屋である昭君之間(しょうくんのま)があります。平成28年(2016年)熊本地震では、壁の破損や床の傾斜が生じました。(現在内部非公開)

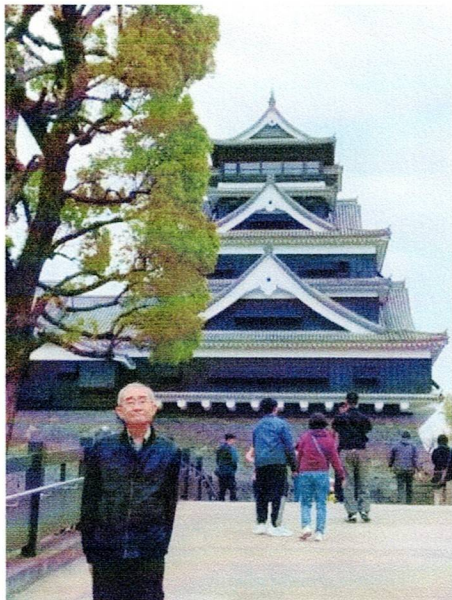
長堀



坪井川に面して直線で約242mの長さをもつ長堀は、国の重要文化財に指定されています。江戸時代の絵図には10カ所の石落としが描かれています。西南戦争の頃に一時撤去されましたが、その後復旧、平成28年(2016年)熊本地震では、長堀の一部80mが倒壊しましたが、令和3年(2021年)1月、復旧が完了しました。

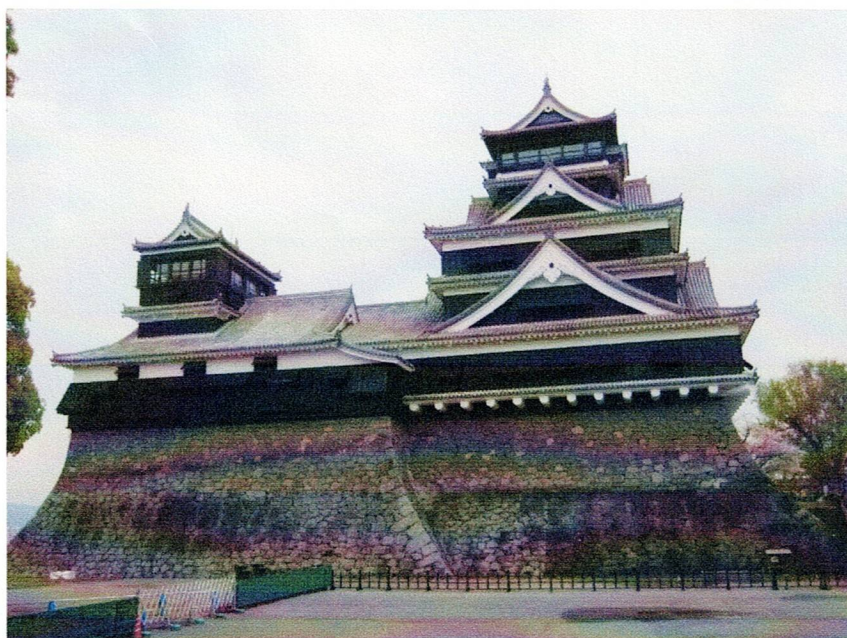
熊本城をもっと楽しむ「+1」情報

隣接する熊本市役所14階には展望ロビーがあり、春は桜、夏は緑、秋は紅葉に囲まれ、冬は澄んだ青空に映える熊本城の全容を眺めることができます。熊本城の復興に関するパネルも展示。また、食事や喫茶も楽しめるダイニングレストランもあります。



熊本城は別名銀杏城

石垣の切り込みと反り返し



小天守閣と宇土櫓



数寄屋丸二階広間の崩落の後